主体的な学びを実践する

小中学生のための日波交流サマースクール

東 愛義

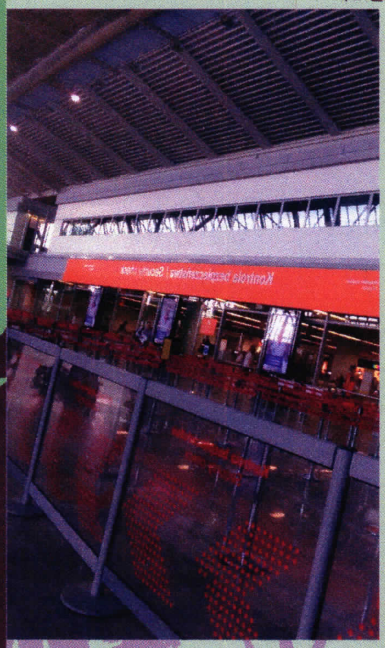
私は今回「主体的な学びを実践する小中学生のための日波交流サマースクール」のサポーターとしてポーランドに行くことになった。この企画はポーランドのチャロジェイスカ・グラ財団と、鹿児島県の蒲生町に位置する森の学校楠学園というフリースクールが連携して行われる。科学の進歩により世界が近くなった現在、私たちには様々な文化背景や思想を持った人と関わっていくことが求められる。そんな中で個人として、日本人としての自負が大切になってくる。子どもたちが異国の日常生活を体験すること、そして両国の子供たちがじっくりと交流する事で生まれるものは、それぞれの子に刺激を与え、人と繋がる未来へ向けて確かな力を育んでいくだろう。そんな活動の中のひと握りをおすそ分けしたいと思う。

さて、時間は6月の10日まで遡る。私たちはポーランド行きの飛行機に乗るため、東京に向かった。出発するまでは実感が沸かずに本当に今日行くのだろうか？などの言葉があちらこちらで聞こえてきていたが、子どもたちも飛行機に乗り込むや否や様子は一転。一気にテンションはMAXに。東京までの飛行時間は約二時間、初めての飛行機に心躍らせる子もいて、とても喜んでいる様子。そうこうしているうちに羽田空港に到着。そこからホテルのある成田空港に向かう、最初は電車で行く計画だったが、子どもたちの荷物のことや、これからの長旅のこともあってシャトルバスに変更した。ただ、人数が多いだけあって移動する事もそう簡単にはいかない。その対策として二人一組でバディーを組んで、トイレに行くときなど、どこに行くにも必ず二人で行動するというルールを決めた。私のバディーは小学二年生の香川 慎一君になったのだが、とてもパワフルな子で一時もじっとしている暇がない。目を離さないよう、しっかりホテルに先導する。そんな中、ホテルに着くとすぐ自分たちの部屋に入り、各々憩いの時を過ごす。私はというと明日の長旅に備えて早めに床に就くことにした。

次の日、今日は私たちにとってとても長い一日となる。起きて朝食をとり、成田空港の国際線ロビーへ向かう。さあ、いよいよ出国である。パスポートにスタンプを押してもらった先はもう国外である、ここから先はもう日本ではないんだよと説明したところ、皆とても不思議そうな顔をしていた。子どもたちも少しづつ空港にも慣れてきたみたいで、自分で搭乗口を探してどんどん歩いていく。心配な気持ちもある一方で、成長を感じる。その背中を追いかけながら私も搭乗口へ向かい、飛行機に乗り込む。今回のフライトは東京に行くのとは違い、10時間という長い時間を狭い機内で過ごさなければならないため、エコノミー症候群にならないように時々特に用事もないのだが機内を歩き回る。その間2回機内食が出た。隣の席ではチキンOrポーク？というおなじみのセリフが聞こえてくる中、私には選ぶ権利がないのだろうか？何度も聞かれることとなるチキンを渡された。元々そんなにこだわりも無かったので特に追及はしなかった。技術の進歩によっておかずなどの種類は豊富で機内食も捨てたものではないと思いながら黙々と食事をとる。ただ、一番の違いは水だ、日本の水は主に軟水であるため口当たりも良く飲みやすいのだが、ヨーロッパは硬水のところが多く、飲むと独特な癖があり、あまり美味しいといえる代物ではない。子どもたちもその違和感に顔をしかめる。そして10時間後、やっとのことでワルシャワにあるフレデリック・ショパン空港に到着した。

飛行機の出発時刻を待つ子供たち。初めてのことだらけで不安なこともあるだろう。これからたくさんの経験を積み、帰ってくる頃にはどんな表情を見せてくれるのだろうか？とても楽しみである

フレデリック・ショパン空港に到着した楠学園生。10時間以上のフライトと時差で少し疲れが見え始めている。乗り継ぎまであと三時間、周りのお店などでゆっくり時間を潰す



フレデリック・ショパン空港の保安検査場。これから一時間半かけてチェコのプラハへ